

ASEAN グローバルプログラム を通して

川口 拓己
Takumi KAWAGUCHI
情報メディア学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日までの約2週間、ベトナムのハノイ、シンガポールでASEAN グローバルプログラムに参加した。今回のプログラムに参加した主な目的としては、ベトナム企業訪問やベトナムでのPBL、ビジネスパーソンとの交流会など様々なプログラムを通して、これからの社会で必要とされるグローバルな人材になるにはどうすればよいのかということ、そして日本人だけでなく世界中の人たちとのコミュニケーションをしっかりとれるようになることの大切さを学ぶことであった。今回のプログラムの日程を表1に示す。

表1 研修日程

8月29日(火)	ベトナム入国(ハノイ) オリエンテーション(ホテル)
8月30日(水)	企業訪問(3企業)
8月31日(木) 9月1日(金)	ハノイ工業大学において現地学生とのPBLおよび発表
9月2日(土)	博物館見学等、自由時間
9月3日(日)	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日(月)	南洋理工大学においてキャンパスプログラム
9月5日(火)	トークセッション(2名) ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	自由時間(オプションツアー) シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

2. プログラムの内容

2.1 企業訪問

今回の企業訪問では、Takagi Vietnam, Rikkei

Soft, NTQ といった日系企業と関わりのある企業の社内や工場を見学し、また実際に働いている方との交流を行った。中でも一番印象に残っているのは、Rikkei Soft での社内見学と交流会であった。そこでは、元々日本の大学に留学していた方が立ち上げた企業であったため、ベトナムの社員さんがほとんどであるのにも関わらず、皆さん上手に日本語を話されていることであった。また、職場ではボロシャツなどラフな服装で仕事をされていることにも驚いた。そして、働きやすい環境づくりに日頃から社員同士の関係を深めるために様々な企画を行っていることにも感動した。仕事をしていく上で、企業は常に社員のことを思っていることは海外の企業でも同じであると理解した。

2.2 ベトナムでの PBL

ベトナムでの PBL では、『ベトナムで日本発のブランド【UNIQLO】の商品をマーケティングする』という課題に対して、ベトナムにあるハノイ工業大学の学生と一緒に現地調査や発表会を行った。まずは、大学間交流セレモニーを通して、グループで一緒になったベトナムの学生と自己紹介や PBL を成功させるためのミーティングを行った。そして、フィールドワークで使うアンケート用紙の作成し、実際にキャンパス内で学生にインタビューを行った。場所を変えてホアンキエム湖というハノイの主要な景観スポットで街頭インタビューおよびアンケートを用いての調査を行った。そして、回答してもらったものを集計し、そこからより自分たちの売り込みたい商品が売れるようになるにはどうすればよいのかと考えた。翌日にはグループ内で自分たちの考えを共有した上で、またインタビュー調査を行うのと同時にプレゼンの準備を始め、時間の許す限りお互いにアイデアを出し合い、プレゼンの準備を終えた。プレゼンの発表は英語でおこなった。これは私にとって人生初の経験であったため、大変苦勞することとなった。しかし、そこでグループ内のベトナムの学生が親身になってフォローしてくれるな



写真1 ベトナムでのPBL終了後の集合写真

ど、国籍や言語が違うとはいえ「思いやりの心」というのがあるように感じ、胸が熱くなったことを今でも鮮明に覚えている。そしてこの経験から感じたことは、世界標準語である英語が話せることは大変重要であることを再確認したのと同時に、現地の言葉（今回はベトナム語）を日常会話レベルまでできるようになることが大切であると感じた。そうしたことから自分の無力さを感じ、次回以降はより一層勉強していくことが必要であると考えさせられるきっかけになった。

2.3 キャンパスプログラム

シンガポールにある南洋理工大学では、実際の授業に参加、研究室の見学、学生との交流などを行った。どれも非常にレベルが高く、圧倒されることが多かった。その中では研究室の見学が印象に残った。最先端の技術を搭載したマシンやシステムを用いて様々な研究をしており、その凄さに圧倒された。学生でもやる気と努力があれば、自分のやりたい研究をすることができると改めて感じた。

2.4 ビジネスパーソンとの交流会

この交流会では、実際にシンガポールで働いてお

られる日本人の方として、寺嶋様、芝崎様、大野様、築野様、そして主にシンガポールで起業されている加藤様の講演会に参加した。この講演会では、なぜ日本ではなくわざわざ異国であるシンガポールで働くことを決めたのか、また、なぜ日本という安心・安全であるところからリスクのある社会で奮闘しているのか等の話を聞いた。中でも加藤様の講演は非常に印象に残る話ばかりであった。加藤様は学生時代に起業され、その後も様々な会社を設立した大変さやそのつらさをバネにして楽しむことなど、今後の進路に役立つアドバイスを熱弁してくださり大変貴重な時間であった。

3. おわりに

今回のプログラムを通して日本にいれば決して得られることはないたくさんの経験をさせて頂くことができた。これまでは自分が日本から離れることに対してなぜか抵抗があったが、実際に現地の人たちとふれあう中でもっと様々な国や文化を持つ人たちと繋がっていきたいと思うようになった。自分の価値観を変えるきっかけにもなり、グローバルな視点からも物事を捉えられる人になることが将来必要になると感じた。それに伴い、自分自身の英語力の低さを痛感し、今の英語力で再び海外に行ったとしても有意義な時間を過ごせるとは思えないと感じたため、今後は大学の英語の授業だけでなく自主的且つ積極的に勉学に励んでいかなければならないと感じた。また今回はベトナムとシンガポールであったが、これらの国以外にも目を向けて、自分の知らない世界に行きたいと強く思うようにまでなれた。

今回のプログラムにおいて、大変貴重な体験ができる機会を設けてくださった多くの皆様に心より御礼申し上げます。